

畠譜

相

岡山 岡室 岡村 岡本
岡崎 岡野 岡松 岡本

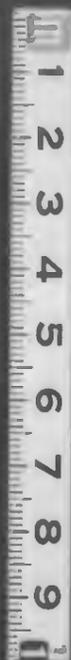
二百十一冊内

現共十五

庫	文	目	内
五六兩	三六〇八	二	和
九	架	冊	書
九	冊	架	類

392

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (49)
函號	156 17



[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

源姓
家後丸内三指松
三百集五集持

先祖不詳

尾山左郎助

某

權現様上御奉公堪別山田与死

尾山茂右衛門

利好

實令冰二寅年涉院山寺云云大坂為御陳
水依○日土成年七月 而上洛云云後目
○同十二亥年二九朔云云黃云云○正保元年
年尾云云○明曆三年三月七日死云云
真清確寺葬

忠山善玄滿

利幸

養有院云云神代云云○實又十二年神勅定

多云云○天和二年病免○元祿七年
七月云云○日十二年十月云云死日寺

實子云云援助云云其云云男

忠山善玄滿

利明

元祿七年七月云云○日十五年云云
多云云○室永云云○亥年十月八日死日寺

利直

鎌倉幕府 武田左衛門 重忠男

岩山市郎左衛門

甚助

言堅

宝永八子年同正月廿八日家持同月七日

家持勘定。正徳又未年十月廿日勘定

。享保十二年四月日迄 亦社系亦依前

。同十二年十二月廿日迄。同十二年

二月八日迄。延享二年七月十九日

迄。寛延元年九月廿九日迄。七拾三

。岩山寺

意利

岩山市郎左衛門

伊助

延享二年七月十九日家持。同年同十

二月十日迄。同八年十二月廿日

迄。安永又申年四月日迄 亦社系

亦供。亦張。寛政三年二月二日

迄。岩山寺

集

利直三男

海辺政五郎

海辺茂右衛門方と書きたるを改五郎様
爲之助依西診長中病免家絶

利政

豊山市右衛門

安永二年十二月廿二日初見。寛政三年

六月廿二日初見。同日壬午年五月十九日没后

久利

豊山甚助

言百俵少人持所

寛政四五年十二月十九日没。同日八年

十月廿二日初見。同日壬午年八月十一日没

世治五郎。同日壬午年六月廿二日病免。同年

七月四日病免。同日壬午年七月廿二日没

重教 初重正

國山幸高

獲領頼宣御位子名萬治三年十月十四日死葬老恩寺葬

重俊

國山幸方

紀伊大直殿家身

家俊九三音麟

源姓

旧姓徳棟

下少保
松皮美

國山

旧氏珍本 子三百俵

珍本之弟主家より出珍本平之侍主心後流

國山幸高助主於二男

重之

國山幸七郎

此伊豆之庄。享保三亥年八月二日死紀伊之君

古之妻

之於於

長山九八八

高橋元申年八月廿日

長橋元申年八月廿日

元申年八月廿日

元申年八月廿日

元申年八月廿日

之矣

高橋元申年八月廿日

長山九八八

高橋元申年八月廿日

元申年八月廿日

元申年八月廿日

元申年八月廿日

元申年八月廿日

元申年八月廿日

元申年八月廿日

元申年八月廿日

元申年八月廿日

寶曆九年九月十日書子〇均年正月
八日家傳〇同日午年五月十日書院友
〇寶曆年四月廿五日病歿

為二百俵

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

平氏
家牧九片吟
高七拾俵之轉
也室

後亂之秋、寶曆二年八月、
依之、
品以書被末男

也室三斗

元政

小桑氏也、
〇寶曆三年病歿

改定

皇室改定

大融院柳田宗吉司以公祖以。慶安元年
十二月百死市官長終存葬

改定

皇室改定

家督
寛文元年七年神田出及中尾書及出切本三
根五儀三之持打。延宝八年十一月

神田院柳田宗吉。元禄六年十一月

二之丸院半以信及出切一信格或之丸
張書在。寛永三年

桂昌院柳田通云。口山書信。口山十月廿日
七十之丸院。口山書信。口山

改定

皇室改定

一云

寛永三年十二月百死。口山書信。口山十月廿日

田原宗純出陣今午由若代一月後取
田切赤松為成三原出陣一信之在赤松
赤松府將取為首之。口十又成平三月
赤田為一將取為首之。口十又成平三月
赤田為一將取為首之。口十又成平三月
赤田為一將取為首之。口十又成平三月
赤田為一將取為首之。口十又成平三月
赤田為一將取為首之。口十又成平三月
赤田為一將取為首之。口十又成平三月

年二月赤松宗純為病之故八幡文也書在
赤松。口十又成平三月。口十又成平三月
赤松。口十又成平三月。口十又成平三月
赤松。口十又成平三月。口十又成平三月
赤松。口十又成平三月。口十又成平三月
赤松。口十又成平三月。口十又成平三月
赤松。口十又成平三月。口十又成平三月
赤松。口十又成平三月。口十又成平三月

心室

赤松宗純
赤松宗純

正徳

正徳二年

正徳二年

寛政元年正月十日始録承祖口

正徳二年正月二日始録承祖口

文化元年三月廿二日始録承祖口

文政元年正月十日始録承祖口

同

年

正徳

家後拜首因共筆書

勝南 九月拾日

正三白儀

和國正徳元年正月十日始録承祖口

和國正徳元年正月十日始録承祖口

和國正徳元年正月十日始録承祖口

和國正徳元年正月十日始録承祖口

和國正徳元年正月十日始録承祖口

和國正徳元年正月十日始録承祖口

和國正徳元年正月十日始録承祖口

徳中後人方系於此年如官之由中治家
運流一撥之官也其言中一也成有之也徳中
載之後紀伊大納之殿之官也其言中一也
四方之府也村之取也其言中一也甲午死
此方也其言中一也代也其言中一也其言中一也

正純

長村丹治子 海軍少将 海軍少将

正徳六年八月廿日

口年言其言

首徳院柳中流中流也其言中一也其言中一也
徳中不日也其言中一也其言中一也其言中一也
後田中門之門也其言中一也其言中一也其言中一也
六月其言中一也其言中一也其言中一也其言中一也
一十年其言中一也其言中一也其言中一也其言中一也
甲午也其言中一也其言中一也其言中一也其言中一也
二月其言中一也其言中一也其言中一也其言中一也
廿二日其言中一也其言中一也其言中一也其言中一也

並目

島村海軍少将 海軍部

退休

享保十三年八月廿二日初見。八月廿五年
十二月廿七日奉命赴小倉後。八月廿九年
二月廿三日初見。八月廿九年八月廿日奉命。
延享二年九月廿九日初見。八月廿九年八月廿日奉命。
享保十三年八月廿二日初見。八月廿九年八月廿日奉命。
八月廿九年八月廿二日初見。八月廿九年八月廿日奉命。
八月廿九年八月廿二日初見。八月廿九年八月廿日奉命。

八月廿九年八月廿二日初見。八月廿九年八月廿日奉命。

並目

島村海軍少将 海軍部 退休

享保十三年八月廿二日初見。八月廿五年
十二月廿七日奉命赴小倉後。八月廿九年
二月廿三日初見。八月廿九年八月廿日奉命。
延享二年九月廿九日初見。八月廿九年八月廿日奉命。
享保十三年八月廿二日初見。八月廿九年八月廿日奉命。
八月廿九年八月廿二日初見。八月廿九年八月廿日奉命。

同長年十二月七日...
 同亦同月六日...
 同亦同月八日...
 同亦同月九日...
 同亦同月十日...
 同亦同月十一日...
 同亦同月十二日...
 同亦同月十三日...
 同亦同月十四日...
 同亦同月十五日...
 同亦同月十六日...
 同亦同月十七日...
 同亦同月十八日...
 同亦同月十九日...
 同亦同月二十日...

同亦同月二十一日...
 同亦同月二十二日...
 同亦同月二十三日...
 同亦同月二十四日...
 同亦同月二十五日...
 同亦同月二十六日...
 同亦同月二十七日...
 同亦同月二十八日...
 同亦同月二十九日...
 同亦同月三十日...

五順

岩村虎之進

孫五郎 備後守 丹後守 佐治守
 二百俵

寛政七卯年分十一月初九日...
 七月十七日...
 同亦同月十八日...
 同亦同月十九日...
 同亦同月二十日...
 同亦同月二十一日...
 同亦同月二十二日...
 同亦同月二十三日...
 同亦同月二十四日...
 同亦同月二十五日...
 同亦同月二十六日...
 同亦同月二十七日...
 同亦同月二十八日...
 同亦同月二十九日...
 同亦同月三十日...

重附

是村海平 致之助

有德院柳河代紀伊殿赤中是村重川左男

武藏國情月家出福安系洲系之号

出相子江心

河入城之廣人 兄中治与之江古海平江心

表之系別所村系系山系山系山系山系

号之系系山系山系山系山系山系山系

十七年七月十一日因在少民所柳河河代

子之系山系山系山系山系山系山系

出及科且園台流系系山系山系山系

初下師範仕山系山系山系山系山系

之山系山系山系山系山系山系山系

早所。系係十九系年八月十有死山系

新日之系山系山系山系山系山系

重房

是村海平

致之助

补記

享保十九寅年十一月七日
口二十卯年十二月十日
元正卯年十二月十日
元正卯年十二月十日
元正卯年十二月十日
元正卯年十二月十日
元正卯年十二月十日
元正卯年十二月十日

正義

長村海平 紋之印 深三席

安永九子年八月廿日
○十二月廿二日一統初見
年正月廿一日
石年十二月廿二日

美山長六郎傳長文三男
長村為太郎

正温

寛文二十一年十一月十日
元正卯年十二月十日
元正卯年十二月十日
元正卯年十二月十日

东

昌村海一席

[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]



藤系姓

志下

家後世龍膽
言百或人持持

紀伊國海上紀伊清村之江志下
物左清之清即位馬与在國之村同出
然此取代但与与持持之之之
安藝國小橋

某

志下物左清

軍記に清光をあるをあるは四年
 十二月功成りてをきりて存正親王
 御法ふつ元文元年新島に復
 来の歌仙形歌をありありに復
 後々々々々々々々々々々々々々々々
 是日兩松とありつゝ元保二成年九月
 宿願とゆりつゝ元享二成年九月
 西九に復つて日三意年三月御休心
 するに復願とありありに復願とあり

控書成後ふつ元文元年御願
 人本聘ありつゝそのあふよあふ
 きりれを久々々々々々々々々々々々
 りまじりつゝ日三意年三月御休心
 御一人と後ふつて復つて元文元年
 三月末版耕織圖を冊筆書云
 子あふつてくたあ 元保二成年九月
 ち成家小なるすつて元享二成年九月
 清法云儀法の御神とありあり

披き紙に銀其板を産物とす。○のちのち
子記よ

有徳院殿より此の川よりあるを經ひ

存る此産物とす。一とす。

後明院殿より此の川よりあるを經ひ

左記のよとす。○のち元未年七月

より清和元勅○日永年六月廿五日

有徳院殿の事記とす。一とす。

令之板と物とす。○日永年七月

大朝之殿に置るに此の事とす。一とす。

せしむ様々の思ふたす。一とす。

○日永年八月廿五日

後明院殿より此の川よりあるを經ひ

のよ産物とす。一とす。

○日永年八月廿五日

去秋

後明院殿より此の川よりあるを經ひ

存る此の事とす。一とす。

福永一く左馬と揮字一或公家よ
ふりく國出き一物本あり一家に
あさぬ一ゆき

後河原殿一様をせ給ひ

とくくくくくくくくくく

漸くくくくくくくくく

そく投本ありのきくくくく

後小室一くくくくくくく

はゆのは技はおれ或時彼を

○明和二年九月廿九日

赤坂成徳より書

○昔久喜をの後の中子長根

久徹一くくくくくくく

明和二年七月十七日

つうのくに新よのきし原

孫一く喜の坊よのあし後

いとねる

西醫師
實校海防的士男

長和舌興

豊定

細奉らうる舌收すも志こころひく様
き快しにうりそえりしけりしと
是あし格しえ又は事年二月新
小少人指格とぬひそえり指格と
高り口ありのりそえりも表格との格
み流をさるるうん信云ま年格
かしめりし表格とぬりし原表後

日年書

日傳式口と物ふりそえり子かえり
しそえり女よあそえり子せん
ことそえりいそえりいそえり
○正妻也 卯年二月十九日死二十
日年書

美橋井林屋の又色書

長本文助

豊威

長與死後子○寛曆九年十二月
月あ飛表は子○日十辰年十月

廿日死之儀云云

其神系云云

者次郎

久岐

初巻

寶曆十一年九月... 八月十日... 安永六年... 御社系...

久岐の御所...

久岐の御所...

後醍醐天皇...

久岐の御所...

久岐の御所...

久岐の御所...

久岐

長平藏

高石信成

元禄九年七月二十日

[Faint, illegible handwritten text]

源姓

是也

正出祥平

家後有也

言百俵五人禁

是也源多

好考

元禄二年九月十日

是也源多

日本元年正月

八月程本相有行如様之院儀。同日
九月年九月死。年八。年下。首行
所市之。之。矣。

為本深之儀

信業

寛文九年十一月家譜。〇。三。寶
二。寛。年。十。二。月。表。大。番。〇。日。七。未。年
四月。要。大。番。〇。之。保。二。上。年。三。月
日。接。の。業。日。も。之。矣。

栄業

為本程左之

元禄二年十一月家譜。〇。日。〇。日。〇。日。
三月。要。大。番。〇。日。〇。日。〇。日。〇。日。〇。日。
庶。子。一。也。殿。番。〇。日。〇。日。〇。日。〇。日。〇。日。〇。日。
年。十。一。月。〇。日。〇。日。〇。日。〇。日。〇。日。〇。日。

明玉

為本程左之

元禄十六年九月癸酉。○元禄二
年二月十九日。○

是年没落也

好

元禄二年二月廿三日。○
保元元年八月二日。○
元年二月廿三日。○
二月廿三日。○
元禄二年二月廿三日。○

幸忠

是年没落也 致三郎

元禄二年十二月二日。○
享元元年八月十日。○
日三。○
日三。○
七年。○
七年。○

其取日年十月十日此勘定日十二
年年清氷込領知刻出用。翌年
六月糞取七取。四知定年二月
受取能月。此糞取用此取所取
全三取。取切方後日。此糞取全三取
。安永六百年八月廿日此度取者
取。日八百年六月二元法取向升
長向修理出用糞取取取。取取
五年十二月

糞取君取出入集出用糞取取取取
云云。年十二月廿日取取取取取
云云矣

是下重去取
全取
取取

取

安永十年八月廿日取取取取取
取二月廿七日取取取取取
云云。取取取取取取取取取

日守家譜の日記寛永十年十月
廿五日卯辰の夜に
上野村に二〇日八辰年十一月二
日勤王の日記年二月六傳奏公家元美
山崎の神皇正統記
三〇日百傳五ノ校抄

寛永十年十月廿五日
上野村に二〇日八辰年十一月二
日勤王の日記年二月六傳奏公家元美
山崎の神皇正統記
三〇日百傳五ノ校抄

源姓
長本

家花轉造
字百傳

佐々木の交流しつゝ河内山交配
教長有夜しつゝ氏とて之後
長登は清高の玉尾市と称し豊後
赤松の仕之坂藤原の後山探玉字流
教山科よりつゞきその名成氏と
も子流を傳へて末京極末後と名
の校抄を信するの子加も信末と云ひ

丁未年正月廿五日

是日在

清

寛文三年十月廿五日

是日在

清

是日在

是日在

改

安永六年十二月

是日在

是日在

是日在

是日在

是日在

是日在

竹君の村久公（美明）七年三月十日
 此後○寛政二戌年二月十日
 後五段は用所法政心所、核念作出
 凡向柳永法念、（口）年三月廿五日
 困教家移氏は救方掛○日也子年十一
 月十六日世勘定○日也子年十一月十
 首病死○十二歳は首安樂と美

心成

志本忠次郎

〇年月朔上御中
 唐門系早席屋
 如所書申

寛政二、三年二月十日
 廿六日清水邸
 月日因不勘定
 总帯一〇日本一
 月廿九日
 〇日廿九日

徳温

言百俵

志本良花

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

藤系姓
家紋三つ巴
是下
子或百俵

下種國字姓家の支流是即佐
徳与畠与これ後流内通氏とを
之子廣流与正親の末の子

実陸若日るる我道男
是下と云
久志命

義保

天正十八年乙未又於若日子日三十二

り十三日家督の信長が御
考又長三年大坂より

東照公に御福の御年

左后院殿小御福。同五年上杉景勝

道心の時

東照公御考の御年御出するより御福

所へ御考の御年御出するより御福

皆川山城と同一く大田東の城の

成と考をせし御年御出するより御福

一

信作義孝の御年御出するより御福

時忠城の御年御出するより御福

門を改易は御年御出するより御福

そのうち長つる御年御出するより御福

城より御年御出するより御福

か様ありける御年御出するより御福

あやむる御年御出するより御福

知るその御年御出するより御福

あり御年御出するより御福

御年御出するより御福

以て使水と勢は〜〜落人のそ
平解級〜〜〜〜〜後依又の
城と〜〜〜〜改易の時
その形跡を〜〜〜〜
織部正後中〜〜〜
主史の城と成〜〜〜
あり〜〜〜〜
二月廿九日死六年六月朔日
後山〜〜〜

我

昌本内親也

寛永六年二月十日

左衛門尉

大猷院殿小右衛門尉

一〇九郎

小幡河原と教

九月廿九日

孫小幡〜〜

江戸小作一 元禄九年五月六日死
東叡山現新院よ矣

保忠

出本新助 隆殿助

兄中五内弟比の内少く内分大坂新
後男君侍と付ひカ多目と云ふ本多
信康より居一 首級級と白紙と
家数云々此の後信康より始

信康殿よお福一。○云々永世平

二月廿七日死六平五歳 野可養等

是本勘忠也

忠信

大坂のち後小文保忠少く其子信康。

其後少く父と云ふ

東叡山

信康院殿小お福の云々家と秘取除名

の時神ありまのるまは流しに〇之
福元年一月廿七日に死す
一葉は子末國を去る

素徳甚るつ

忠孝

謙 公孫 用をさしつ 聖徳三王 五十七 忠孝

改く素徳と冒稱す〇麻鹿三年

清和院改稱す〇清和三年

る勢とある〇之又〇年〇り〇
死替代り

素徳之系之書

忠臣

〇之又〇年〇機田院改稱す〇
如父如〇之〇年〇六月廿九

死〇寺

昌本勘右衛門

和名 勘右衛門

保江

之稱十五年 櫻田忠房より 家督
○同十六年七月九日 忠房 忠房 忠房
原米八拾俵 ○至 永元元年十二月十
九日 而 忠房 忠房 忠房 ○同日 忠房 忠房 忠房
七年十二月十九日 忠房 忠房 忠房 ○正
治元年六月十一日 忠房 忠房 忠房 ○同日 忠房 忠房 忠房

元以之病多之 ○享保其年十一月
十四日 死六十二歳 卒 坊曰云

保忠

昌本勘右衛門 昌本勘右衛門

享保十一年四月二日 忠房 忠房 忠房
元年四月十日 忠房 忠房 忠房 ○至
曆十年四月十日 忠房 忠房 忠房 ○
同平八月十日 忠房 忠房 忠房 ○同日 忠房 忠房 忠房

白り高の死年一義白り矣

是市勘考り 強也

保備

高なる儀

昭和二年一月廿三日の事あり

年十二月廿日

後明後殿

寺子高院殿小あ福の事あり

表考考り〇日八年十二月廿九日

寺子高院殿小あ福の事あり

実考院儀六空無二男

是本之考考り

保正

定及八年十二月廿七日

九年六月十日

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

藤原姓

是奉

是奉信使与高与六代素吟新

高右門心久之男

是奉延十郎

久包

西治元年十一月十八日素吟新

石多平儀。日又未奉。四月晦日

家三郎久包
三蝶
高身儀

改七卯年四月廿日致仕

長中 山 探 志

久可

寛政六年五月廿七日... 七卯年四月廿日... 月廿六日... 百廿六日...

三式百俵

正勝 一 傳 名

東... 正勝... 寛政六年十月...

正勝 一 傳 名

寛政七年... 正勝... 寛政三年三月...

家系... 寛政七年... 正勝... 寛政三年三月...

友系姓

長中

家紋 丸三巴 丸内奉字 百五十俵

寛政七年... 正勝... 寛政三年三月...

正勝

寛政七年... 正勝... 寛政三年三月... 長中... 山 探 志

正勝

長中 山 探 志

徳右衛門

○ 家康 陪報 社ニ 所 寄 付 給 入 七 八 載 七 丁 是 日 封 入 之 也

裏面白紙

改七卯年四月廿日 志百段仕

冥相并書 志百段仕

久可

寛政五壬午年七月廿日 志百段仕
七卯年四月廿日 志百段仕
月廿日 志百段仕

志百段仕

正勝 一徳書

東宮宮と 志百段仕
正勝 一徳書
志百段仕

志百段仕

寛政七年の院
志百段仕
志百段仕

志百段仕
志百段仕

志百段仕

志百段仕
志百段仕
志百段仕

志百段仕

志百段仕

志百段仕

正徳六年十一月廿二日家格。同日毎日
享保八年十月廿二日元行
庚辰活數。同日辰年十月十九日少當道。
同年月名。同日辰。
享保元元年七月廿六日少當道組頭。寛正
三年六月四日方死。十六歳。赤坂村徳与森

正恒

尾本新次郎

寛正三年九月二日家格。同日辰年正月

八日死。年六。采。回寺

正輔

美濃長治守

尾本正助

六之節

源吉坊

寛正四年六月九日家格。同日辰
七月廿一日少組。如永六。中年四月日元
正徳。天正。辰年十一月廿二日。起。徳。正。徳。正
具足。徳。美。回。正。月。日。名。遠。意。の。回。入。己。年。正。月
十二日。死

三白文様依

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a large rectangular frame and illegible characters.

東照文津代

同 園本 三子石

橘姓 家紋 此の如く

諸君と云ふ字に世に古き重之伝

宗純男左のまは信后宮御孫二男

啓題院も申す名法東の御子

諸君

從初年より書字の十六歳より短少
院の門より平白系字のありたり

人との授けは九年常流の祖道三
字つ漢字兼行院諸通者といひ
西通者の号と漢りまこと好勝乃
の君は志授興とる慶長年中
伏見あり

東照公の御得〇元和四年四月法眼
勅許に于二條〇同九年

大猷院勅許と治 送市の時を依て
信を〇曾令此二年日元社系依を

強身には清咽痛う未だ其妻日猷
上河波院〇同九年

名徳院勅の命おたりと法眼は同九年
院掃 勅許諸通院と〇同九年

中務おと定地を御事子成京都
楊をいひて中と持持り〇同九年

十二年船中親居藤白〇同九年
年

大猷院勅出例とて勅と一清波院清威

の録白紙紙の同十二年胡解四に
使之人白麻と漢より丘と京都より
珍脈病論を方志と記しは使の書
と需ふより書と稱する中巻の文数巻
の李斯可代板書用防考重家感候
の余文書は尚書集後集より二巻
より副池は毎二に江府の宅了
指越しれ男と琳壽に候らばの同
十四年

大猷院殿清不傷の時山樂献とて書
し故玉ある糸村或は園村とて菜地
子石とて清業悲歌女の佐母系のお
唐尾膨清菜とて玉をた入黄令入冬
物産綿帛と稱ふも存る紙物紙方
二五のく清業紙の清業の紙を紙
とて糸紙の宿産紙とて物。

横書
池洞 國史清脈を珍中とて抄し紙

時服白袍存貯

林正理より著書所被附令合七皇朝類苑
一節存貯○正保二年四月廿二日死又
於九歳没治所書寺に葬

諸通院主琳法眼 改仕宵軒

女球

寛永九年 月 初日○正保清塚

存貯○同十二年 月 法眼○同十七年
奥清塚之百法之格人技持○正保二年
月 家督○万法之格人技持○同十七年
出所後六法之格人技持○寛文五年
月 上京○延宝三年 月 廿六日改仕又
格人技持頂戴○同四年 月 初日有与温泉
浴湯之赴けしお世世に再之致し
て湯治し 貞享三年 九月 廿二日京
越山に死六十八歳 著書所大徳寺に

玉梅信子葬

啓通院毒仙法眼

祐品

實徳京二曹

大猷院教初見○正保二年月○二日信二
括人持持○万治二年八月六日為書
○延享二年月○若子家督○四年
六月四日家督○礼○同二年十二月六日

法眼○之縁六年十一月六日隠居○同十
四年正月九日死七十八歳法名福壽
寺よ葬

啓通院主信法京二曹在奉新

毒京

天和二年七月十日初見○貞享三年十
月勤学のため上京○之縁六年十二月
六日家督家令○同七年三月十日

純貞公（一）同元年十月廿一日（二）番医師
○同元年九月廿一日（三）令旨（四）為給○同十三
年十月十九日（五）東前（六）同十四年二月廿九
日（七）尾修（八）令旨（九）同十八年二月廿一
日（十）尾修（十一）令旨（十二）同十八年
四月廿九日（十三）社系（十四）法書（十五）○同二十年十二
月廿一日（十六）法服（十七）○同二十二年醫書（十八）万安方
書（十九）同二十二年十月廿九日（二十）故（二十一）同月
廿一日（二十二）法平（二十三）叙（二十四）同月廿六日（二十五）時服

臥法多子（一）故（二）為給（三）○同二十二年二月廿六日
致仕令（四）叙（五）為給（六）○寛延二年十一月
十日（七）死（八）半（九）同元同守（十）為給（十一）

略題院立治 初壽仙

篤敬

享保十六年二月廿二日（一）初賀（二）○延享二年
十二月廿六日（三）家督（四）為給（五）○皇曆二年十
二月二十日（六）只（七）括（八）文（九）歲（十）同守（十一）為給（十二）

松心

諸通院言治法眼 治法長新

初九及序

實曾谷伯五結之流曹

宝曆三年十一月廿九日
廿一日廿六日
二月十九日
三月十九日

八日法眼○明和二年
今清用○同八年
清并休碩事
土自清見○每水
佐幸○同八年

分壽

諸通院言治法眼 初之悟

三琳 宗什

長祿七年甲子正月廿八日
年九月廿九日家督等命
年十二月廿四日注服

長祿七年甲子正月廿八日
年九月廿九日家督等命
年十二月廿四日注服

源姓

源氏

長

長

誠若國任人長公事忠清侍男

忠房

長金長播

元祿六年正月廿三日所傳也。同日其付
御月見。翌七甲年正月廿九日言後。同日
己年八月廿日。而長金長播。乃及金長。○
元永六年正月六日。源氏。○其保其年

七月七日死日白養園寺葬

忠春

長伊右衛門

元禄八年庚申七月廿六日初見。宝永五年
八月六日喜享保二年前八月廿二日死守七菜下

長谷宗道寺葬

忠倚

長金十郎

享保二年癸卯十月廿二日家落。元文三年
十月七日死守七菜同寺

忠壽

長伊右衛門

長之助

元文三年十一月二日家落。宝暦十年辰年正
月廿三日死守七菜。同日十一巳年八月廿九

貞享二年正月十日死約也高栴寺葬

おれ可成し品

神中名 神中名 神中名

踏取君標 神中名

正房

長良菴

春日

貞享二年正月十日吉 日軍背信初見 元禄九年七月

三月廿七日死回寺

抽籠

實正久遊

長了師

三了師

元禄九年七月廿七日 元禄九年七月廿七日 元禄九年七月廿七日

三月廿七日死回寺

藏日寺

散

園了菴

法高師

○同十五年正月
 二月廿九日死二十四日葬回寺

道生

忌了伯

百三

同十五年六月二十日葬
 二月廿九日死二十四日葬回寺
 ○同日十五日遠慮沖光○同初五年正月廿百

○同十五年正月廿九日葬

景原

實休弟吉卷多美子

同了節

久留節

了純

安永七年十一月廿九日葬

二月廿九日初見○同十年十月廿九日葬

二月廿九日初見○同十年十月廿九日葬

二月廿九日初見○同十年十月廿九日葬

二月廿九日初見○同十年十月廿九日葬

存房

長之四郎

正切書房後

元禄九年夏連山例山中村。山中村組の山内院
十有八日山中村組の山内院永十有九日山中村組の山内院
相成于其日山中村組の山内院永十有九日山中村組の山内院
此書月廿三日山中村組の山内院永十有九日山中村組の山内院
十月廿五日山中村組の山内院永十有九日山中村組の山内院
其日山中村組の山内院永十有九日山中村組の山内院

孝常

園部之孫

元禄十一年八月十日山中村組の園部之孫
九月九日山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫
所定通接道介山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫
山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫
刻限止引山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫
山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫
山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫山中村組の園部之孫

乃中言しと流るる言を概切身し礼甚ふと云
 即去しつる言を冠と云ふ言を三言はくは後より大
 勢御身と云言接合は内不汗刀と云言所は言
 存御身と云言接合は内不汗刀と云言所は言
 在在致言はくは内言化言象来賜言と云
 言中言言言言言言言言言言言言言言言言
 強極言の言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 剛言行言言言言言言言言言言言言言言言言

宅と追言を紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言



丁酉家来山川左妻の書し去る左連書由
 中在酒中の翌十日子朝の書し一傳武田
 中右妻の書し一傳武田の書し柳子
 一書跡を承るし其危相定て此名わか
 中右妻の書し一傳武田の書し柳子
 之傳武田の書し一傳武田の書し柳子
 十日書入書原長の書し及神尾左之傳
 八郎之傳定、其紙所の書し柳子要細取
 一書し書利所の書し一傳武田の書し柳子

中右の九月廿六日及神尾左之傳書し
 以紙由戸紙の書し一傳武田の書し柳子
 一書用是の書し其紙所の書し柳子
 同日の書し一傳武田の書し柳子
 丁未の書し即利左之傳書し一傳武田の書し柳子
 同日の書し及長つ書し一傳武田の書し柳子
 丁未の書し其書し一傳武田の書し柳子
 一書し其書し一傳武田の書し柳子
 一書し其書し一傳武田の書し柳子
 一書し其書し一傳武田の書し柳子

一九日廿五日松平隆慶より
一白鳥年出列に付て是より後
在所へ先也なる致し趣に御身候知
三万石降参りて出遊し下りるに御成
事

古く申す所候九月廿五日の事候は又通
寄るに御身水地也と申す候人の元御事
未定に付りて其の又通寄候先を急ぎ
御月より七日後迄急ぎ先の家承立事

より十日の記書立事

孝良

是是是後御存立事
是是是是

家承立事候事
孝良は在事十日の事候は御身候
十年三月十日の事候は御身候
申年四月十日の事候は御身候
りて其の事候は御身候

八月三日卯辰初の日三年三月十日
卯辰初の日三年三月十日卯辰初
卯辰初の日三年三月十日卯辰初
卯辰初の日三年三月十日卯辰初

孝道

長江守 治政中

寛延三年三月十日卯辰初の日三年三月十日卯辰初
三月十日卯辰初の日三年三月十日卯辰初

卯辰初の日三年三月十日卯辰初
卯辰初の日三年三月十日卯辰初

高田石

孝健

長次郎 新編

寛政三年三月十日卯辰初の日三年三月十日卯辰初
三月十日卯辰初の日三年三月十日卯辰初

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

津村 守女

家藏丸白向物
四目結
言三平之我持

忌

長壽

履歷不知佐^{長壽}功高而凡道義深官好

方姓忌度

忌之在道 後林行

要道

正法未年二月廿日儒者重會合。

新秋午人扶持。享保十三年十月廿日元文元年六月廿日

病死法事新居宗安年之葬

長 授年

元為

享保二年十月九日家督。元文三年
同月百病死葬地にて

長 而長

長 而長

要信

元文三年七月百病死。元文三年

奉 園二月十日半人組。主唐二
申年 行百病免。安永九子奉十二
月百病死。長元文三年行

長 而長 初態七

要抽

安永九子奉十二月七日家督。元文
八年二月七日百病死

東京府葛飾郡
長子部在道

幼女次部

和
寛政三年十月十六日舞臺
寛政八年正月廿五日長百
初生後分置區

見書

与存人持

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 和, 寛政, 八年, 正月, 廿五日, 長百, 初生, 後分, 置區, 見書, 与存人持）



友原姓

家殺了三宅
五七相
高三百俵

是惣多清元重倚茶園三出生豊長家仕
浮田安勃無之而和家子直安應和右安
仕官平八後子孫代之浮田安之信在互外
元重三代

某

是紙茶子

九節右垂

豊長右衛門朝辨紙代之友元在主人中納言

秀隆相從彼國之海海仕文祿二年父元
忠死去後遂成相續仕老后之職加勤仕
以家子細有之浮田來退去内初仕浪人
有立之志古傍草花房志摩守也

權現極之志 古出為人元祿六子不意下立口極
涉在云仕暫有勤位任仕其去後得年内
妻德之德有存方在付不中年内依勤
南信知後年三立了在平内母方叙文内衣
掃部令全登之在加大坂城中在加

少長父子誰別仕藝城之始末

權現極系象 涉不審元祿元年七月三日
於妙顯寺切腹

一 系

長平内

妻德之德有父就希子不身更軍浪仕
在云在母方叙文内不掃部令今在云
相加大坂城中在加元祿元年

二月落城後於江戸切腹仕下

元春

長孫傳次

法禪 道和

浮田中納言秀家代別。祿子三百石。元宛
外通習小姓。多領子相。勤仕。父家長
三戌年。子細有。浮田家退去。浪人。而家
於。在。不。性。質。嗜。醫。學。以。有。法。禪。道。和
叔。父。醫。業。相。立。在。立。以。父。寬。永。十。二。子。年

育方於京死

元勝

長九郎在重

智房

父元春。長。浪人。仕。於。京。於。法。禪。醫。業
相。續。元。安。二。年。二。月。廿。六。日。死

元安

長五郎在

五郎在重

道詮

醫業好石了以牙又智庵死後傳中國
於宇那早崎之引物浪人言死立以知事係
十二申年九月甲子死

元善三男

是甫庵

隱居靜隱

壽元

兄智庵元務伴元安醫業好石了以牙
壽元俊兄元勝善子三子成醫業相續
寬永十八年十一月廿五日死 長出也切系

二百俵沙洲也子云。兼應元元年十二月
十八日法眼。天和元元年十二月廿一日隱居。
元祿七年七月十八日死八十七兼淺草桃
林寺葬

養育院標 沙美市物美市画山也之國行廣

壽益

是甫庵 五郎右 道溪

延宝元年十二月廿六日初見。天和元自

年十二月廿六日家持^妻○貞享元子年十月
十六日例也云云○甫高^下○^下如余德古后
经^下局改各侍候 上意^下入道溪^下改
○元禄四年九月廿八日追放○日又申年
六月九日追放○日十二辰年十二月
月並^下市礼 市員^下○室永六年四月
形○ 湯松極涉^下中^下日年七月十日
少切米三百俵^下市例也云云○^下此○^下症
二辰年十二月十八日法眼○同又未年九月

十九日例也云云 市免^下食^下○^下享保^下年
八月廿八日

長福祿 小次郎極^下市例 市接^下短^下能^下延^下是

例也云云○同六年十二月廿八日市
俵^下加^下増^下○^下下^下於^下各^下○^下日^下九^下年^下正月
廿八日湯辰^下市料^下市^下首^下俵^下湯^下辰^下料^下○^下元^下三
巳年正月廿八日死八十^下以^下義^下法^下市^下桃^下林^下市^下候

表並編集書

痘疹要方

十二冊

本草附方撮要

十冊

右二部草稿之候今久付来

美濃人墨丸左衛門左衛門

長甫居

岐愿

右郎左

寿愿

寶永乙子年長子○日六丑年十月十日

初是○享保六年十二月廿日

竹娘表極涉病用○日初丑年三月

女八日亥時多合○同十二申年四月十二日

涉社系代○日年十二月七日

天英院極涉○日十丑戌年十二月廿一日

法眼○同十七子年十月廿六日西丸小廣委

小用○日十八丑年九月十日

瑞春院極涉病用○日年九月十日西丸

涉兼中極涉匙○日十九寅年正月十日

六日西丸美尔醫師○元文四年六月十日

竹女代極涉附○日年七月十日

月光院極沙用。延享二年三月十日

萬次郎極沙用。延享元年

十月七日。延享元年

○同日。延享元年十月

後院極沙筆。延享元年六月

月。百敷年。出積。老年。延享元年

沙免。勝。次。方。延享元年

此。友。信。穰。延享元年

延享元年。延享元年

○同日。延享元年九月。延享元年

延享元年。延享元年

延享元年。延享元年

延享元年

延享元年。延享元年

延享元年。延享元年

延享元年

長道溪

五郎右

年録
甫居

壽考

元文三年八月三日瑞男無死
寛延三年二月十日初見○宝曆元未

年十一月廿七日

月光院極少伺○日二酉年六月十日與

初見者年々全平而拜候○日七年十二

月十日西丸少廣妻法用○日八年十月

月九日死二十五歳口奇

實意安江宗愉之男

長甫居

孝悦

孝太郎

壽考

宝曆九年二月廿日養子○日年十一月

六日疾傳○日十二年十二月十日西廣妻

法用日月晦・吾合○日初六丑年十一月

九日西丸與少廣所○日月十日

弟壽極極法用○日年十二月十八日法眼○安永年

月廿五日未年十一月七日

移居極極法用○日八年四月十八日西丸

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

家教元三也
五七相
言三言辰子替

忠壽元三二男

实松平大膳古吏医师
右田隆彦法持素元男

忠宗椿 丈房

壽信

元禄己未年九月廿八日足赤益成追放
亦作有右家督隠居静隠寿元
是山也松老之成其子外美子無以存
亦妻也松平大膳古吏持醫師右田

法橋素元伴右田宗桂依元祿己未年
十月晦日養子年秋少冬同年十一月二日養
子○同己申年十月廿八日初見同十一月十日
より月並く礼名出○同七年十二月十二日
養子○同十五年六月廿八日表小番医師
○寶永己子年九月十五日
松原君振也医師○同年十月十八日杖持
三人杖持は下言三首後二人杖持。享保
己亥年八月十六日死○年兼後藤若栲林

寺葵

実意安法尔宗怙男

忠甫店 控名

宗怙

宝永己子年七月二十日養子其後意安法
平惣領玄部々宗怙病重高学業相續
難仕新・自惣从涂仕少外男子其後
より双方懇話く上享保己亥年六月十日
養子府

実朝原清房言盛男

忠丈后

玄瑞

集

享保四亥年八月十二日養子。同年十月
二日家持。同七亥年十二月四日小石川
養生所。同十一年年十二月六日普医師

○元文元辰年六月廿七日

天英院祿清治。寛保元酉年四月十九日
病全。同年六月二日表清為医師。同日

亥年六月十七日死同寺

壽

実加茂右郎公清光隆男

壽満

忠丈后

徳三助

元文二年年八月廿六日^葬養子。寛保三年
年八月二日家持。寛曆元未年二月十九日
死同寺

壽倫

是道和

能心之助

宝曆元未年九月九日象傳。明和七寅年
閏六月朔日死。年六。葬日寺

壽庸

是道和

雲孫 常之忠

明和七寅年九月十日養子象傳

先祖之祥

家後了色
凡内書毛
高若指集三持

規改

長河友在書

神田河原下 辰介 宿屋之書
山崎宗。寛文三年
四月廿二日記

某

長河友在書

寛文三年六月十日辰時馬寮の御
方古儀の元禄十四年十月廿日辰時
西徳江手年十月廿日辰時二歳小石川
院之儀云々

某

長崎全志

元禄十四年十月十日辰時馬寮の御
三年十月廿三日辰時長崎三人扶持上儀
西徳江手年十月廿日辰時二歳小石川
院之儀云々

親寿

長崎全志 西徳江手 忠義

享保元年八月二日辰時西徳江手
院之儀云々
○同平和元年六月廿七日辰時西徳江手
院之儀云々
○寛延元年正月七日辰時西徳江手
院之儀云々
○享保元年九月廿七日辰時西徳江手
院之儀云々

規模

三ノ境

尾形中

宝曆三年九月廿二日存続の同文
九月廿二日初見の寛政五年九月廿二日
二條寺

祝詞

長崎法印

高木権儀之入持

寛政五年十一月六日
文政五年正月
文政五年正月八日

菅原姓
園井

家後梅所
唐花
言多

南無大信大支醫師尾井三齋師之内

道業

尾井自居

南無大信大支醫師尾井三齋師之内
二月廿二日
依の定宝三年四月十八日
寺中住樂院并

実子孫安んずる

東 尾井玄下

正徳元年四月八日辰巳年七月
乙酉の辰和えの年十月乙未の辰巳年
乙酉の辰巳年十二月乙未の辰巳年
乙酉の辰巳年十二月乙未の辰巳年
乙酉の辰巳年十二月乙未の辰巳年
乙酉の辰巳年十二月乙未の辰巳年
乙酉の辰巳年十二月乙未の辰巳年

達 ヲリス

実子孫安んずる

尾井玄下

才子才子才子才子才子才子才子才子
才子才子才子才子才子才子才子才子
才子才子才子才子才子才子才子才子
才子才子才子才子才子才子才子才子
才子才子才子才子才子才子才子才子
才子才子才子才子才子才子才子才子
才子才子才子才子才子才子才子才子
才子才子才子才子才子才子才子才子

道蔵

実子孫安んずる

尾井運南

乙酉

自叙古往今來史亦為病氣有以今夜
發是日天乃六年年 關以日 漢唐

道博

昇運南

氏師 主用

子武百保

珍母

年以六年年一月其日自月乃天乃六年
年以六年年一月其日自月乃天乃六年
形之醫業未熟也一身約之百位也
以有元元月四日年一月其日自月乃天乃六年
同十二年一月其日自月乃天乃六年
賢者 文昭後德之五年百回神志以法年一月其日自月乃天乃六年

文昭二年九月
前九年十月



源姓

昌和

家紋 叙轉

五中相

子羅儀式書

之在之前汝亦於百姓之海

久利

昌和角古馬

永保之辰年三月其日自月乃天乃六年

昌和石下之陣也依

昌和石下之陣也依

昌和石下之陣也依

去後高麗傳之後少如諸程儀。元初本
五年六月死

久澄

是松石生傳

元初五年八月公始得旨意永十三年
二月日公。寛文七年十一月死

久光

是松平物

寛文七年六月日公。二月日公。元禄

十三年九月日公。令其數日公。始以
元禄之卯年十月廿九日死。公法。松平

久周

是松平生傳

元禄之卯年十二月日公。始得旨意永
九年。年日公。始以公之文。定。年。日公。始
二月。日公。始以公。始得旨意永

久遠

是松平生傳

元禄年

之文曰壬午年六月...
 年九月...
 崇仁...
 令...
 漢...
 皆...
 漢...
 竟...
 乙...

壬午年...
 有...
 年...
 月...
 年...
 年...
 年...
 年...
 年...

〇日中在年之方以方物之任之向之也修後
 見方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇

年方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇

久相

在永六百年方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇

長松山
 之方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇
 日中在年方物之方令之致別後任後致〇
 方物之方令之致別後任後致〇

寛政十一未年四月港

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

文初

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

去冬道中節人等結之方出用應汝夜
有取。日年有清員務員以尾以東海
及節門之出書信出用如海以有存金
或取。日年有清員務員以尾以東海
日十年年二月日之。出書信出用如海
今主夜。日年有清員務員以尾以東海
在海道之節門之出書信出用如海
三月日之結之社信信信信信。



平氏

家三舞 推龍膽

園野

印苗田中

三十五首名

桓武天皇二十代相模次而時行陸亂

北條台皇御射某後之祖教代伊皇國

田方欲得野在田中以此以古皇皇御思

以紙中も春行 政界想从

融成

品野紙中も入道江書

比系家江氏政長桓約是結也も海織

法元親王は為移の月松田山門におりて居
るに藤原の交代はつる法元は元年十月
九日夜に俄に病を召し御座りて是日
に御座りて御座りて御座りて御座りて
郭外守り給はりし月今井白虎の御座り
明皇御代に於て時方有る是正實上野介不
校異志は月平は上野の寛文二年日
月日光の御代に於て是病を召し居りし意
は法元は御座りて御座りて御座りて御座りて

藤原の御代に於て是病を召し居りし意
相傳は御座りて御座りて御座りて御座りて

孝明

皇御代

皇御代

寛永九年九月庚辰日自見の月十二日
十二月廿五日庚辰の月十二日自見の
四月廿五日庚辰の月十二日自見の
死之日一采月年

敬明

長野孫三郎

書

元禄二年七月庚辰日自今迄之居
年十二月庚子日始之享居日言年十月
六日宗性組の日九居年十月十日

信濃松本藩の日十七年六月二十日初九書流
五月十七年二月廿七日火倉系出産物以
依場子の宝曆二年二月十日老中令
抄取の日辰年死七後日系出取

春明

長野孫三郎の成胎日男
長野孫三郎

孫三郎

享保十六年四月十日、長子の宝曆日
戊午八月十日、外務の日、言年四月
七日初九、書流番の日、初九年十月
十日、初九、言年十二月七日、流石の
日、初九年三月十日、言年八月、初月

年

天皇聖德太子御

園野孫一師 大ニ師

トシヤス
陸 輕

幼明慶

二子五白石

宝曆十一年年 月日 内和南年

三月廿二日 日 月廿二日 西元

此記の月日 年 月日 西元

明和元年 月日 十日 西元

宝曆十一年 月日 十日 西元

年 月 日 西元

家後九月 西元
高千五百石

平姓
園野

越中守入道江守

房恒

園野平三郎

初是御殿之山系十師氏房

天正十八年 月日 西元

誠切 西元

正徳十一年 月日 西元

四曆之元年六月廿七日甲子
二年七月十九日乙未
三年八月廿一日丙申
四年九月廿三日丁酉
五年十月廿五日戊戌
六年十一月廿七日己亥
七年十二月廿九日庚子
八年正月三十日辛丑
九年二月十一日壬寅
十年三月十三日癸卯
十一年四月十五日甲辰
十二年五月十七日乙巳
十三年六月十九日丙午
十四年七月廿一日丁未
十五年八月廿三日戊申
十六年九月廿五日己酉
十七年十月廿七日庚戌
十八年十一月廿九日辛亥
十九年十二月三十日壬戌
二十年正月十一日癸亥

某

庚辰年正月十九日
庚辰年二月十九日
庚辰年三月十九日
庚辰年四月十九日
庚辰年五月十九日
庚辰年六月十九日
庚辰年七月十九日
庚辰年八月十九日
庚辰年九月十九日
庚辰年十月十九日
庚辰年十一月十九日
庚辰年十二月十九日

天和二年二月十九日
天明二年三月十九日
天保二年四月十九日
文政二年五月十九日
享和二年六月十九日
元禄二年七月十九日
享保二年八月十九日
享和二年九月十九日
享保二年十月十九日
享和二年十一月十九日
享保二年十二月十九日

成

庚辰年正月十九日
庚辰年二月十九日
庚辰年三月十九日
庚辰年四月十九日
庚辰年五月十九日
庚辰年六月十九日
庚辰年七月十九日
庚辰年八月十九日
庚辰年九月十九日
庚辰年十月十九日
庚辰年十一月十九日
庚辰年十二月十九日

宝永二年二月十九日
享保二年三月十九日
天明二年四月十九日
天保二年五月十九日
文政二年六月十九日
享和二年七月十九日
享保二年八月十九日
享和二年九月十九日
享保二年十月十九日
享和二年十一月十九日
享保二年十二月十九日

成

天明二年正月十九日
天明二年二月十九日
天明二年三月十九日
天明二年四月十九日
天明二年五月十九日
天明二年六月十九日
天明二年七月十九日
天明二年八月十九日
天明二年九月十九日
天明二年十月十九日
天明二年十一月十九日
天明二年十二月十九日

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]



平姓
同姓

是野指江為英明之官

家紋鳩取草

三ノ舞
松龍燈
高九草三草三草三草

互取

慶安之重年九月之四日分り

慶安之重年九月之四日分り
慶安之重年九月之四日分り

十月之初重年九月之四日分り

慶安之重年九月之四日分り
慶安之重年九月之四日分り

慶安之重年九月之四日分り
慶安之重年九月之四日分り

田中孫千部

雪山

乃成... 竟文之... 運河... 檢... 以... 人... 業... 以... 申

甲... 檢... 才... 台... 中... 年... 已... 癸... 酉... 壬...

斗親の後姪三郎前名三郎新中
の以て本年一月五日 上意病死す
るに尋ねの内年四月五日方候病氣
身毒山山小堂法正入藏を志す身
法名浦多江後同日志己年二月五日
小姓組の室水三郎年二月五日死す
口守

長野権左衛門 孫八郎

将明

室水三郎年一月五日死す家傳の事保之

入
戊午十一月五日小姓組の以て甲午日見
山前割の以て甲午十一月五日病死す
享年六十八歳十一月五日死す
正月十一日死す九月麻布云の身毒

長野源十郎 孫源市

尚明

安永二箇年十一月五日家傳の以て甲
年二月五日小姓組の以て十一月五日死す
享年六十八歳十一月五日死す

英の寛文元年在年三月廿七日病歿の月
享壽九十有九其性坦の月十年
四月終

享壽九十有九其性坦の月十年八月廿四日
九月初十日二年二月廿五日中野終
所藏先大の二和村之院之病歿の月
三月廿五日九月初十日二年七月八日
吹上右の院時終の月八年二月
三月九日九月初十日二年七月八日
享壽九十有九其性坦の月十年八月廿四日

二月廿七日終の月七年二月廿五日終
九歳回寺

書

長野強子所 終七

享壽九十有九其性坦の月十年八月廿四日
九月初十日二年二月廿五日中野終
所藏先大の二和村之院之病歿の月
三月廿五日九月初十日二年七月八日
吹上右の院時終の月八年二月
三月九日九月初十日二年七月八日
享壽九十有九其性坦の月十年八月廿四日

文

昌野合年節

三九百拾貳石二年七糸九合

寛政四年十二月念日家書。同三年

青其方初見



平姓
昌野

家後丸内増破草
三三石

紙中身以言入道融成想以是野家書

房恒次男

昌野壯前与 章印 昌恒

昌恒 家号

成恒

寛永四年正月廿四日昌野合同之在年十二月
昌野合の行儀昌野合の行儀元禄元年九月
昌野合の行儀元禄元年九月

百石の月女八白布家の寛文七年一月
 十日御所御奉行の御旨に百石の月女
 年二月十日甲府御所御奉行の御旨に
 子石の御旨に百石の御旨に百石の御旨に
 別家御所御奉行の御旨に百石の御旨に
 福元元年十月十日御所御奉行の御旨に
 十月十日御所御奉行の御旨に
 文昭院御所御奉行の御旨に
 法揚院御所御奉行の御旨に

寛文七年十月十日
 御所御奉行の御旨に

序
 寛文七年十月十日
 御所御奉行の御旨に

寛文六年十月十日
 御所御奉行の御旨に
 御所御奉行の御旨に
 御所御奉行の御旨に

成勝

寛文七年十月十日
 御所御奉行の御旨に
 御所御奉行の御旨に

寛文八年二月十日
 御所御奉行の御旨に
 御所御奉行の御旨に

年十月廿五日家持の日記三年八月廿六日
甲府城代の日記三年十二月廿八日
元中三年十二月

文昭院御所九月廿九日
甲府城代松平定信の日記
八月廿八日
正徳三年二月廿九日
享保二年十月廿九日
八月廿九日
三月廿九日

正徳三年十月廿九日

咸常

享保二年
正徳三年
享保二年

享保二年十一月廿一日
分月廿五日
享保二年十一月廿五日
享保二年十一月廿五日
享保二年十一月廿五日

教の成るは口在るは後代之旨是教之旨也
神前之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也
後之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也
初之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也

是野法法也 後之旨也

和部

和成知 能也

和部六百年十一月九日
十一月九日
十一月九日

和部之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也

和部之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也

和部之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也

和部之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也

和部之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也

○野了道 横内一幅
渡河院極樂堂元為元年一月影写

○清金派書 江國廣斗鮑宝珠 横内一幅
右方極樂堂元為七年一月分存

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



平姓

是野

家教權藤草

三軒

言云名儀

是堂控左為英明二重田中孫十帝

左所次男知

長野後以帝

德后親心

拒以

元福十五年七月六日百三首石分心常法

○同十寅年一宗姓總月十六事年相方

○書の家水元申年七月宗細方

申年三月及方家合○以中大成年上月

[Small handwritten notes at the bottom left corner]

九月初五日辰元五年十月十五日百兩及知
同日六年字子月十日及知百兩及知
八年十月十日百兩及知

其 今之世

嘉和二年四月之五日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

八八

平姓 是野

家後鳩雄草
三三三三三三

是野内藏久成明次男

是野平九郎

成旭

始房明

嘉文之七年六月十日成明中名野比男
乃新紀之子也
場之清志成旭也
月有平姓也

皇統元年三月庚辰朔五日己未
九子年二月庚辰朔五日己未
亦丁酉日庚辰朔五日己未
源賴朝享年保元元年二月丁酉死
於後昇

將改

皇統元年三月

長十郎

皇統二年三月庚辰朔五日己未
亦丁酉日庚辰朔五日己未
源賴朝享年保元元年二月丁酉死
於後昇

八

皇統元年三月庚辰朔五日己未
亦丁酉日庚辰朔五日己未
源賴朝享年保元元年二月丁酉死
於後昇

公賴

皇統元年三月
長十郎

皇統二年三月庚辰朔五日己未
亦丁酉日庚辰朔五日己未
源賴朝享年保元元年二月丁酉死
於後昇

将芸

英将致少男
尾形松平

寛延三年十二月十日
卯年六月廿八日
二月廿四日

房保

英将致少男
尾形保光

宝曆十三年十一月
家永
書院

的
同
廿
廿
廿
廿

時英

尾形松平

房保

尾形松平

日年

天
年
年
年

日火令系山麻特安の紙子心推利麻肉
お取の月八在年十二月十日初九附の月九
己年有月六日或術 上院五物之及の
同年九月古号 龍保上太的 上院何故

家後雄植草
三ノ舞
拾龍膽
三ノ三ノ三



平姓

志野

志野指屋の英明口書

重明

志野原之文

青十九日

寛文之卯年十二月廿四日切米之旨康中書院
書の元禄卯申年十二月廿九日切米之旨
米市官在月級宗卷院新

重仍

志野指屋の文

重仍

元禄六年三月十一日皇子御格の
享保六年九月十一日皇子御格の
守并

厚

享保六年三月十一日皇子御格の
享保六年九月十一日皇子御格の
享保六年十月九日皇子御格の
享保六年十一月九日皇子御格の
享保六年十二月九日皇子御格の
享保六年十二月九日皇子御格の

明使

皇野原

寛保六年三月十一日皇子御格の
元禄六年九月十一日皇子御格の
享保六年十月九日皇子御格の
享保六年十一月九日皇子御格の
享保六年十二月九日皇子御格の

明肥

皇福生公存の御数
皇野原

寛保六年九月十一日皇子御格の
享保六年十月九日皇子御格の
享保六年十一月九日皇子御格の
享保六年十二月九日皇子御格の

月日百... 九月... 月...

...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

西後九年正月

房都

尾野熊五郎

元和八年正月七日
年二月十日
七月十日
四月十日
十月十日

房安

尾野熊五郎

尾野熊五郎

元和八年正月
二月十日
三月十日
四月十日
五月十日
六月十日
七月十日
八月十日
九月十日
十月十日

[Faint, illegible text on the left page]

[Faint, illegible text on the right page]

